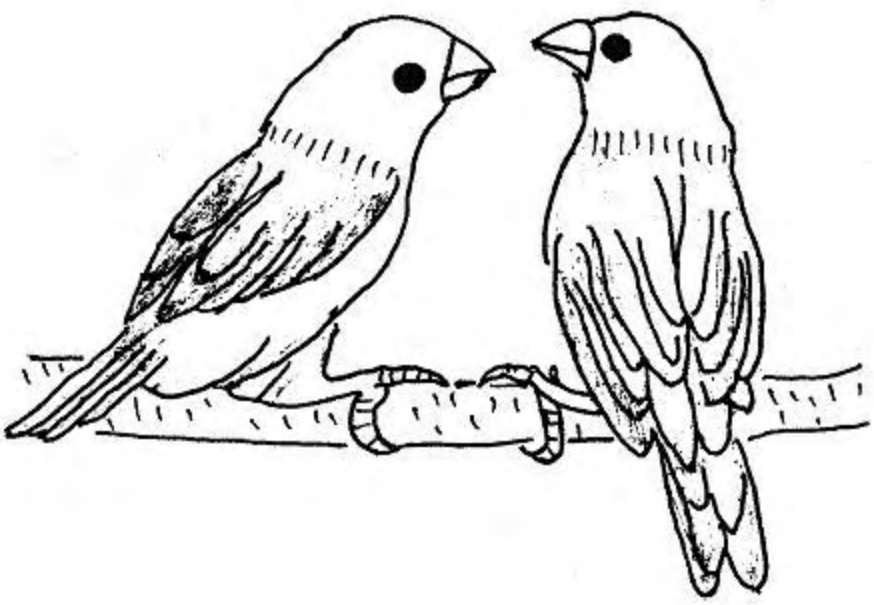
さえずり

作品集第１８号



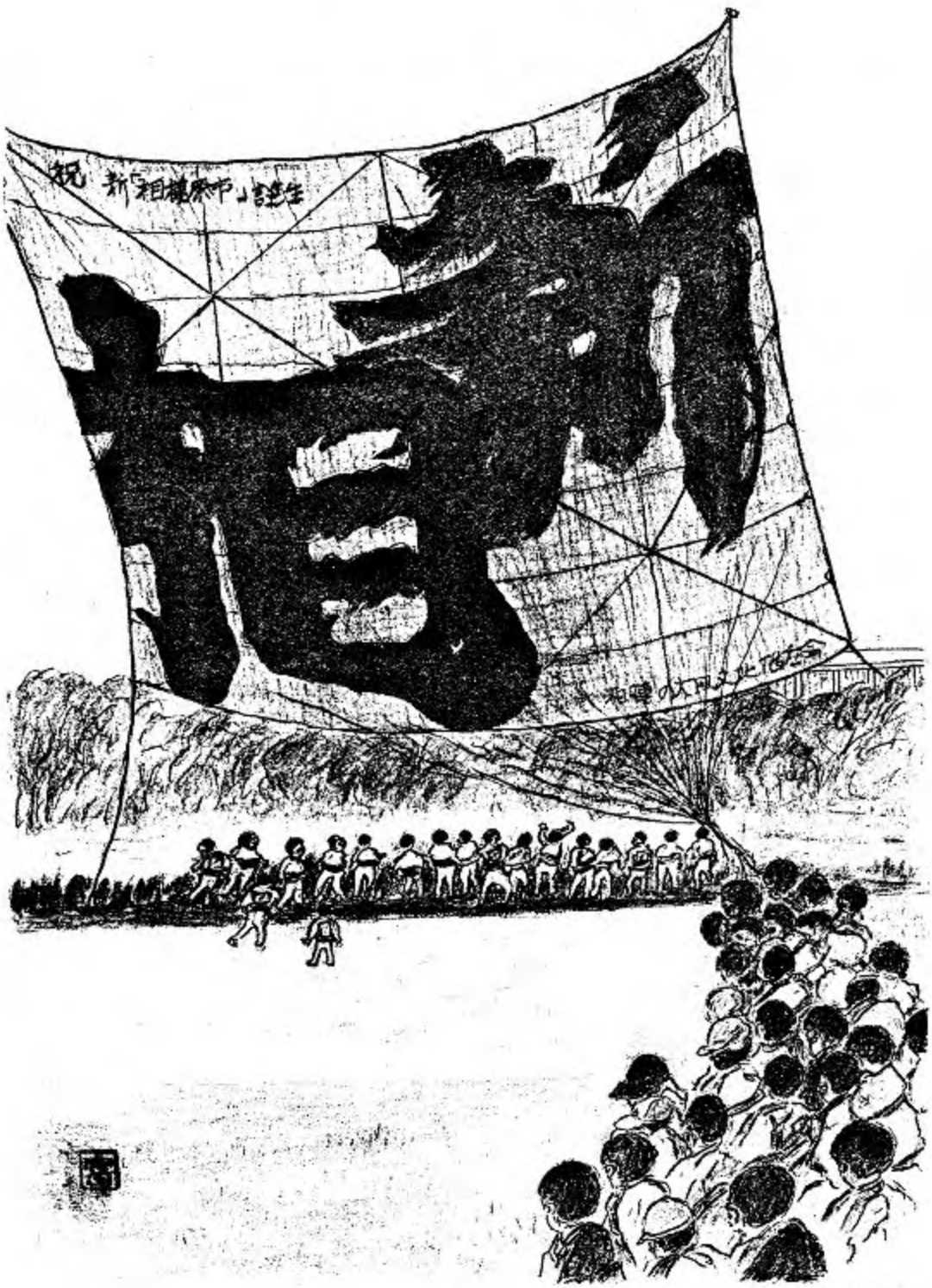
相模原失語症友の会

平成１８年度

目　次

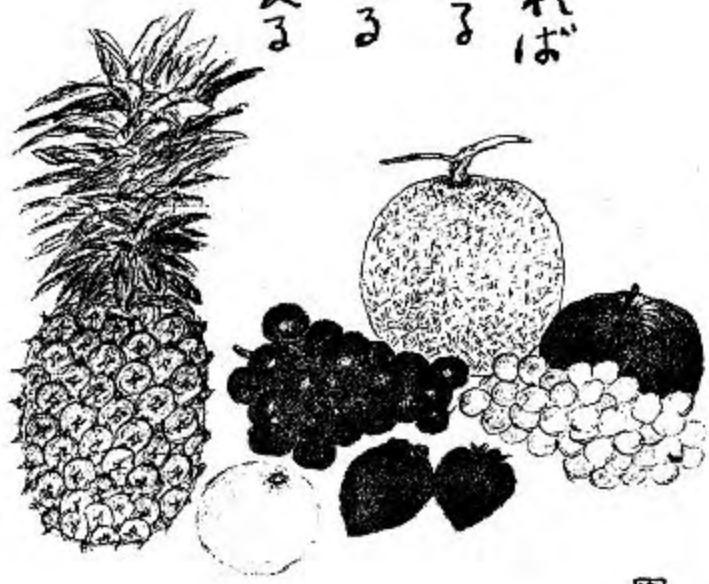
（敬称略）

絵	中田富雄	1
2007年カレンダー	因幡至隆	3
絵	小川治男	4
絵・書	鈴木　篤	6
書	板垣暁雄	8
	岩崎安良	9
	内山行央	１０
	大堀孝章	１１
	久田　稜	１２
◇「切り絵」（南の会より）		１３
写真	末武廣明	１４
「私のリハビリ作品」	古山久子	１６
	品田　妙	１７
	末武廣明	
『一泊友の会バスハイクに参加して』	因幡至隆	１８
書・『「失語症全国大会」に参加して』他	浅原意央	２０
『再び22世紀までに人類は亡ぶ』	岩崎安良	２５
『イタリアとパリの旅』	桑水流悦子	２６
『脳梗塞発症後をふり返ってみて』	岩川輝子	２９
『今から始めるボランティア・NPO講座』	鈴木恵子	３２
◇「？？？私は誰でしょう？？？」（中央の会より）		３４
『友の会に参加して』	岡松あづさ	３５
◇「失語症理解のための講演会」の報告		３６
・『失語症の人が直面するコミュニケーション・バリア』	阿部國士	３７
・「失語症理解のための講演会」開催報告	白濱豊子	３９
◇友の会の一年		



中田富雄さん画

笑顔があれば
自分が変る
相手が変る
運命が変る



中田富雄さん画

2007年カレンダー(漫画)の挿絵を作りました

因幡 至隆
いなば よしたか

1月

いっぱい、買ったよ！

2月

思い込め人に届けたい…

3月

とうとう別れです、悲しいネ…

4月

初仕事のウエイトレスです

5月

チャッキリ、チャッキリ、
チャッキリナ…♪

6月

私も、
かぐや姫みたいだね…

7月

笹の葉さ～らさら～♪…

8月

線香花火、きれい！

9月

採れた！ 収穫、々々

10月

食欲の秋、食べるよ!!

11月

見て見て、晩秋の紅葉を！

12月

今年も、お世話になりました

小川治男さん画

我が家で
十年ぶりに咲いた蘭です
鈴木篤

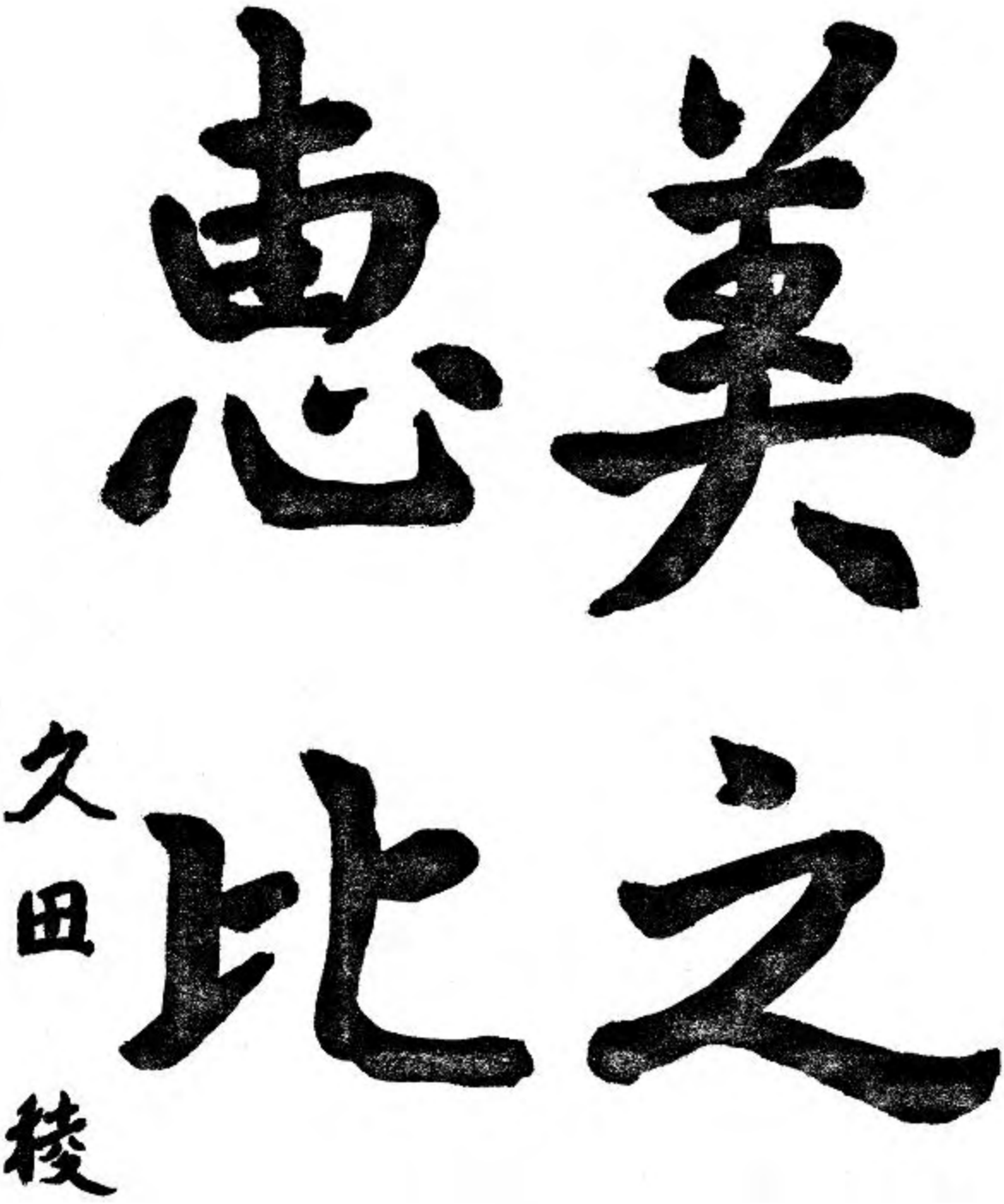
輝
鈴木篤

板垣暁雄

以和為貴

無長
内
極樂
山行央

忘己利他
孝章


美之
忠比
久田
稜

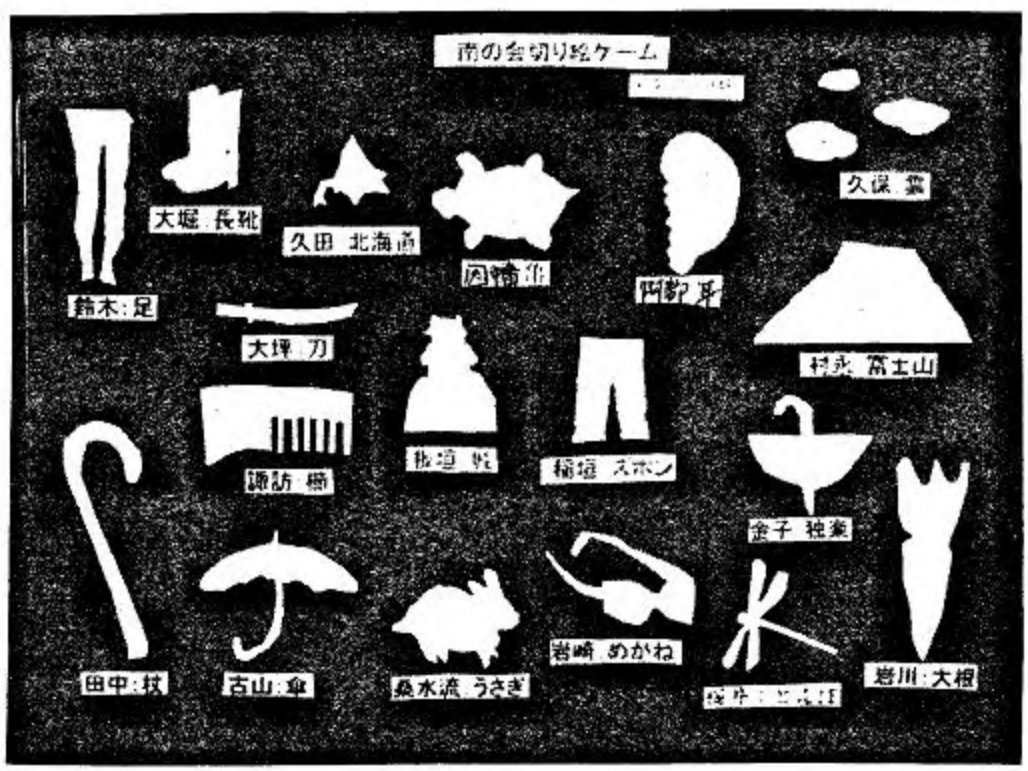
切り絵

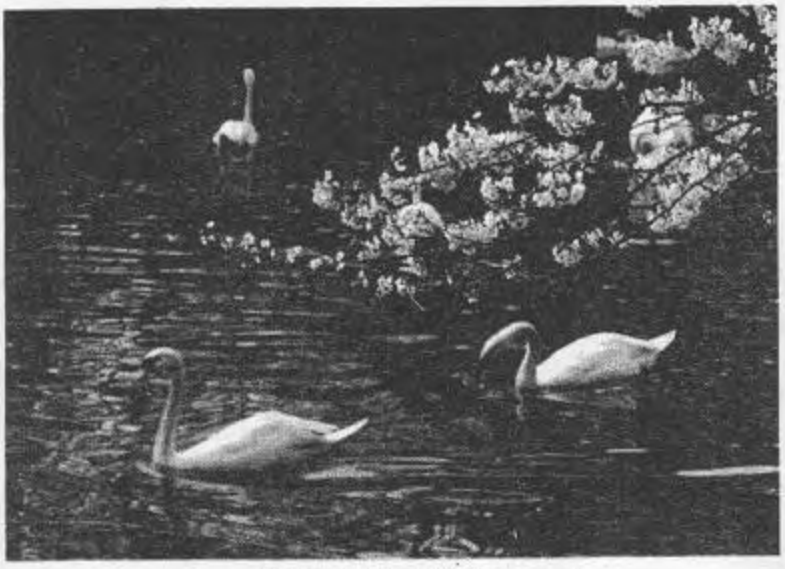
南の会

平成18年7月度南の会例会時に切り絵ゲームを行った際の会員皆さんの力作です。会員の大半の人が左手で鋏によるきりこみに苦戦、VOさんの助けを借りながら、見事に素晴らしい立派な作品を完成しました。

皆さんの作品は（敬称略）

阿部：耳，因幡：亀，久田：北海道，大堀：長靴，岩崎：めがね，
稲垣：ズボン，村永：富士山，鈴木：足，久保：雲，板垣：城，
大坪：刀，諏訪：櫛，岩川；大根，田中：杖，桑水流：うさぎ，
古山：傘，金子：独楽，桜井：とんぼ，

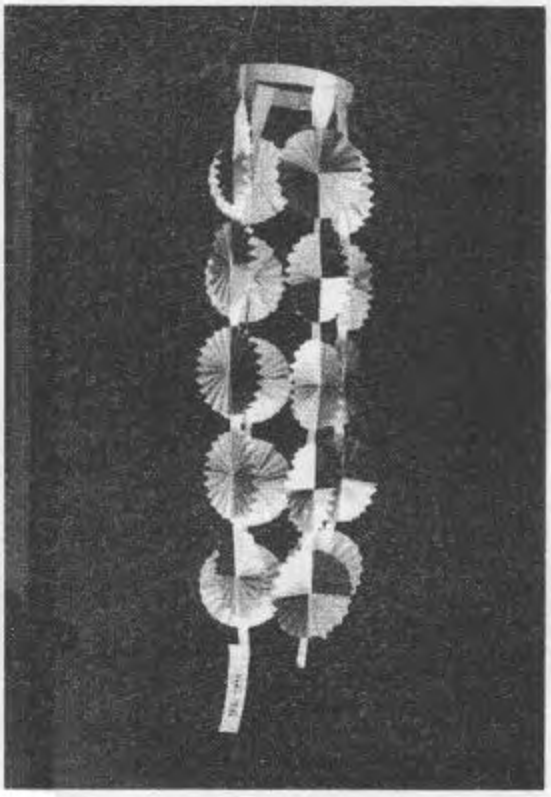




白鳥と桜（鹿沼公園）

末武廣明さん撮影

芝桜（新戸）



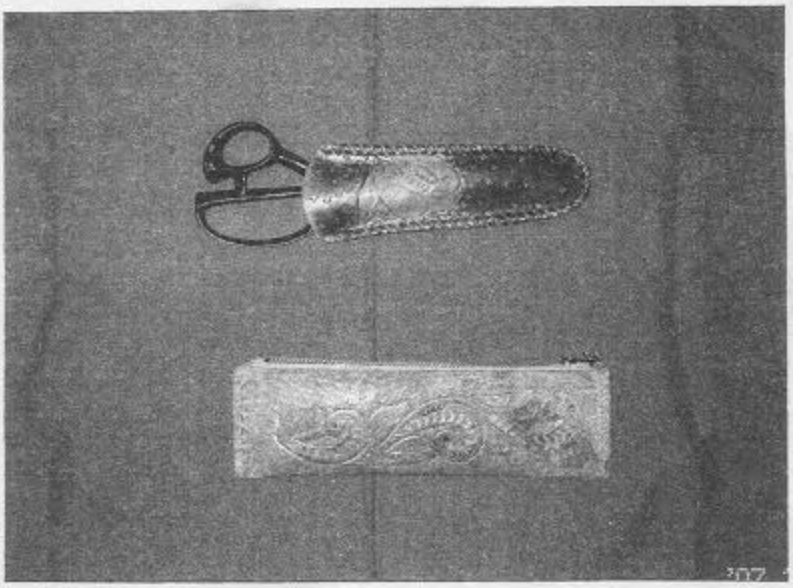
通所先での私の作品

私のリハビリ作品

南の会　古山久子

皮革細工

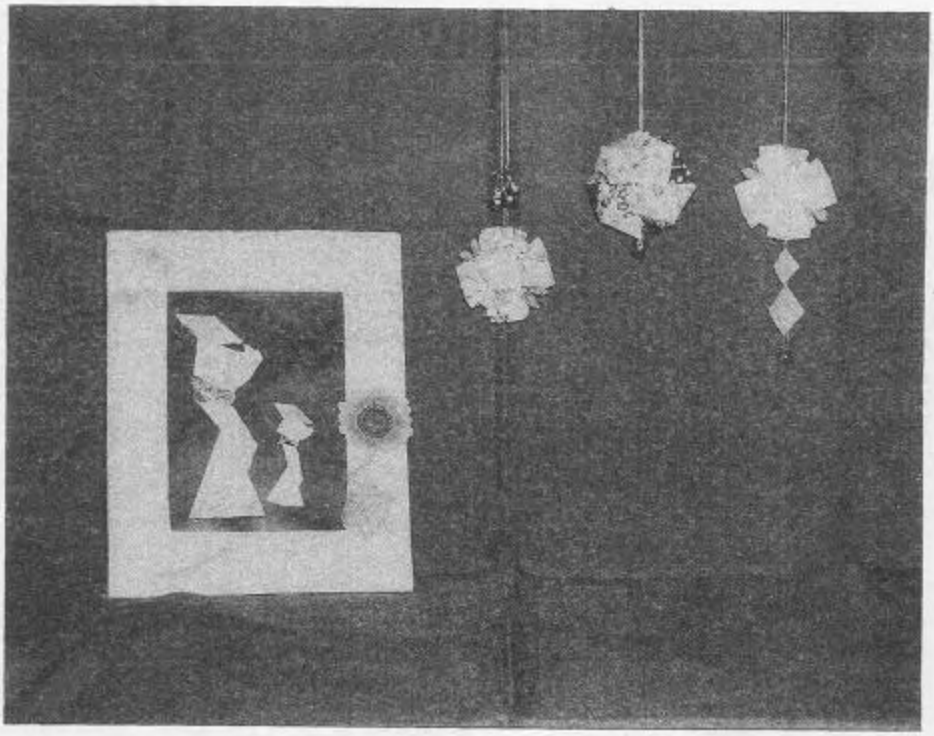
鋏ケース　　筆入れ



私のリハビリ作品

中央の会　品田　妙

折り紙細工　人形額とくす球



ただ、夕日を見る所は、粗末の階段しかなく、当然、手すりも有りません。何人かは、見たくとも見えませんでした。残念です。黄金崎の夕日は有名であるが、尚更、障害者が安心出来る様な設備が有ったらいいなと思いました。

ホテルニュー岡部に着き、18時から宴会です。美味しいご馳走と、カラオケも、みんなで盛り上がりました。特に、松木薗さん・品田さん・古山さんの3人娘の清らかな歌声と、今井さんの熱唱が思い出に残ります。

相模原失語症友の会バス旅行 **ホテルで、ディナー&カラオケ　06.11.17**

翌日18日(土)は、9:00出発で、「小坂みかん園」でみかん狩り。それから「伊豆洋らんセンター」で中華の昼食と自由行動で洋らんを見学しました。最後に、東名沼津「ジャンボひものセンター」で、買い物をして来ました。小生は、ともしび号のガイド・高橋さんがお勧めの、骨無しのアジひものと明太子を買いました。

16:30頃、市民会館に無事に到着。天候も恵まれました。段取りをしてくれた、会長阿部夫妻と、ボランティアの白濱さん石塚さん、清水STや健常者の家族方々にも、もう一度お礼を言いたいです。

今回も、大大成功!! でした。

以上

浅原意央さんの作品

「失語症全国大会」に（参加して）

浅原喜央

水戸プラザホテルで、全国失語症者の懇親会がありました。私の席には『北九州・富山・いわき・川口・土浦』の人たちでした。

民謡は磯節で「磯で名所は大洗い様よ 松が見えますほのぼのと…」私たちは静かに聞いていました。『サァーサァーお立会 御用とお急ぎの無い方は、ゆっくりと聞いて…筑波山がまの油売り口上』です。私たちは面白くケラケラ笑っていました。

夕食は「もどり鰹 筑波鶏 水府そば 水戸納豆…」などでした。地元の材料で料理を美味しく食べました。みんなと話しほんとうに楽しい会でした。

本大会が筑波県立県民文化センターでありました。頑張って頭の中に何かいれて帰ろうと思います『本人が失語症に… 父が失語症に…』の体験発表がありました。

「言葉・文字・記憶・話す・書く…だめ！だめ！父が失語症に生活はどうしよう。」苦しい毎日でした。

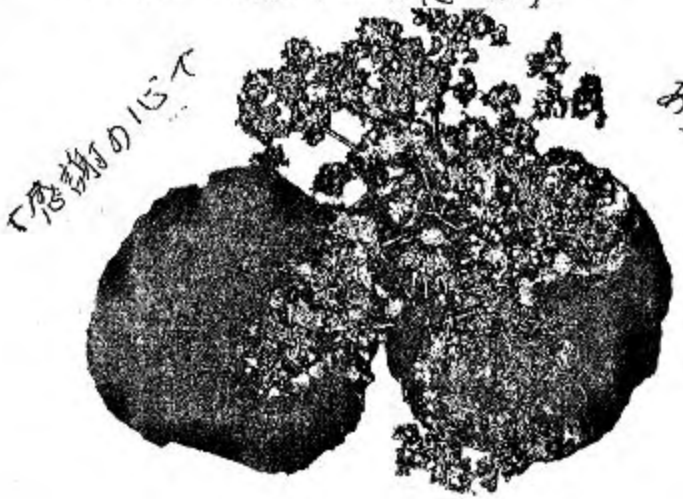
でも本人の努力と家族の努力が身を結び我が家にも笑顔と喜びを取り戻しました。

私も「言葉・文字・記憶」だめでした。妻が五十音の表を作って『あいうえお…』の練習したり日記を毎日書くようにしました。また、接続詞が特にわからず大変でした。文章を複数で書くように努力しました。又、妻が毎日足の伸縮をしてくれました。最初に持ち上げたときに足の重さにびっくりしたそうです。妻の努力が私を救ったと思いました。

『ほんとうにありがとうございます』

講演で「障害をのり越えて精一杯生きる人生の意味があると信じるから」と…

私も妻も「ニッコリ一番・笑顔が一番」でこれからも気持ちを「プラス思考」にして、今日より明日へと進みたいと思います。



袋田の滝

早目に昼食を取りました。特に、アユの塩焼きを美味しく食べました。

みんなで、袋田の滝に行くことになりました。私は下で待っているから、と妻に話しました。「おとうさん 坂を登りましょう。」「さあ！元気をだして！頑張ろう」と妻の「勇気を思いやり」があり、私も滝に登ることにしました。私の車椅子を妻が「ファイトン ファイトン」「押して 押して」と登りました。

「フーフー」云って滝に着きました。そして、写真を撮りました。

地元の人に滝の高さを聴くと、高さ125m 幅は70mもあるそうです。

また、紅葉が緑・赤・白に変って風情があります。

滝は ゴーゴーと落ちています
滝はゴーゴーと落ちています。

浅原 意史

〈散　歩〉

浅原喜夫

五時頃起きました。散歩に「千波湖」に行きました。

朝の空気のおいしいこと…「スー」と深呼吸をしました。気持よい朝です。

湖には多数の「黒鳥」がいました。その黒鳥に餌をやっているおじさんに聞いてみました。

「黒鳥はいつ自分の国に帰るのは…」おじさんは「うれしい顔で千波湖が家ですよ…」

私も餌をやりました。うれしい顔で「来て良かったね」「楽しかったね」餌を食べていました。

「元気で頑張って」

また千波湖のまわりは、走ったり、歩いたりして運動をしていました。1周が3kmあるそうです。私も途中まで歩きました。7時頃ホテルに帰りました。　〈9.3〉

千の風になって

私のお墓の前で泣かないでください
そこに私はいません　眠ってなんかいません
千の風に　千の風になって
あの大きな空を
吹きわたっています

秋には光になって　畑にふりそそぐ
冬はダイヤのようにきらめく雪になる
朝は鳥になって　あなたを目覚めさせる
夜は星になって　あなたを見守る

私のお墓の前で　泣かないでください
そこに私はいません　死んでなんかいません
千の風に　千の風になって
あの大きな空を
吹きわたっています

千の風に　千の風になって
あの　大きな空を
吹きわたっています
あの　大きな空を
吹きわたっています

浅原意央さん書（この歌に感銘を受け、憶えたそうです）

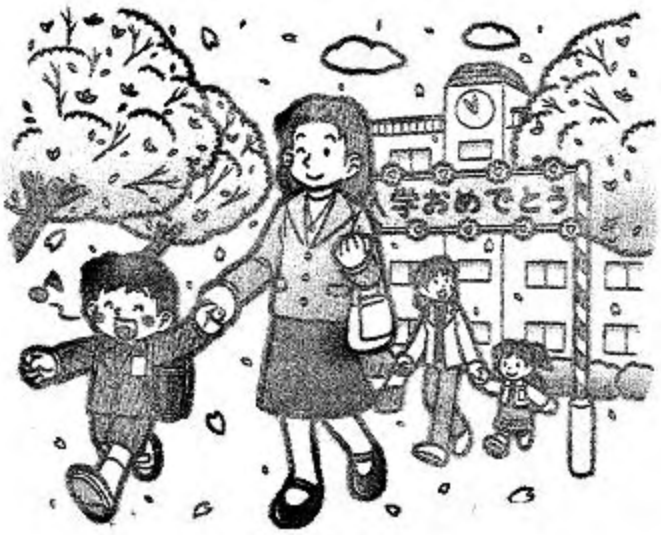
再び２２世紀まで人類は亡ぶ

岩崎安良

昨年１０月新横浜駅で転倒して以来やる気は起こらない。左膝を痛めているから庭仕事もままならず、これは私にとってはつらい事であった。

この冬は暖かい。気圧配置は冬特有の西高東低にならなったことだ、沖縄方面には絶えず低気圧が発生し、東へ流れて関東地方も雨となる。この現象をエルニーニョ現象という、ごく最近の情報によればこの現象は消えたと云う。

「さえずり」に何年も前に「２２世紀まで人類は亡ぶ」と一文を書きだが、今ここに再び書いて見よう。米国のゴア元副大統領の映画「不都合な真実」の代表され、最近にわかに話題となった温暖化阻止運動のことである。昨年米国を猛威を奮ったハリケーン「カトリーナ」犠牲者１７０００人以上を出したり、日本でも北海道で突風が吹いたりして狂暴化している。この台風もエルニーニョ現象も地球温暖化であり、北極の雪が溶けだし、太平洋のツバル国のように水没の恐れがある。京都議定書から離脱した米国のブッシュ政権ともともと議定書に入っていない中国と温室効果ガスの排出国１、２位を占めるいる。これでは仕方ない、この他にもいろいろな災害をもたらす。もともと雨の多い赤道周辺で雨量ますます増える、一方乾燥している亜熱帯では、夏に乾燥する可能性がある。自動車は便利な乗物である。人人は決して手放さないだろう。温暖化待ったなしである。



「イタリアとパリの旅」

桑木流悦子

「お母さん、旅のキップがとれたよ。」えっ待ってよ。ローマなんて無理よ。」娘が大学の時アメリカに研修に行きたいと言うのでお金を貸した。「そのお金はもういいよ。」というどこじゃ旅にしようしかし今は事情が違う。私は五年前流いにおかされ半身不由なのだ。娘とお兄さんで助けるからね。行こう。よし親子三人の旅は始まりました。

十一月十四日　娘が仕事が終りしだい出発です。その日は成田のホテルです。忘れ物はないか、自分の体は大丈夫だろうか。嬉しさと心配が半分半分です。

十五日　飛行機でパリからローマと飛んだ。夜になった。ホテルの中でイタリアに自分かいるのが夢のようだ。

十六日　イタリアの見学・スペイン広場・トレビの噴水・ヌボロ・ローマはエ事で残念。コロッセオなど巨大遺跡はもう一度見たい。

サンタンジェロの城についた時は暗くなっていた。私は恐いから待っている、子供は見たいと言う。結局用人棒としてついてきた長男もちいかず外からライトアップの城を眺めたのです。がっかりしています。

十七日　とんな日になるかな　ローマからフェレンツェ。ようやく乗った汽車の旅。ところが座席がない。英語で話てもわからない。すぐ近くにいた修道女がイタリア語で話してくださった。私達は二人無事座ることができた。お世話になりました。窓から汽車の旅はぶどう畑と畑が続いていました。

十八日　アィレンツェ。サン・マルコ広場・ルネサンス文化・アルノ川西岸　夜郊外で食事会・町のネオンが見えた。長男はスパゲティがおいしいと私の分まで食べた。その後のステーキは食べきれず・くやしいと言ってました。

十九日　空港で移動です。ところが飛行便がキャンセルです。ようやく最終便でパリに着きました。

二十日　半日観光。セーヌ川・凱旋門・オペラ座・映画のオペラ座の怪人かな・長女と二人で見に行っただけ・サクレ・クール聖堂。日曜日なのでほとんど店は休みで教会に来ている。ミサが行なわれている。バスを後にして地下鉄に乗った。すると座席をゆずってくださった。ありがとうございますと思わず日本語で言ってしまいました。ルーヴル美術館へ行った。ここは時間がなくて、子供達はまたきたいと言った。

こうして私たちの旅は終った。元気に終った。足のわるい人はどうしてるんだろう。と考えてしまう。子供達ありがとう。お母さん又、頑張るよと思いました。

KYOKUTO 20×20

No. 1

脳梗塞発症後を

ふり返ってみて

志川綾子

文章をマメに書く主人が、集中力も言葉も
足りず書けない様子なので、私が思いつくま
ま、書いてみました。

平成十七年九月十八日、敬老の日、私の両親
のお祝で身内が集まっている中、仕事場の用
事を済ませて遅れて来る事になっている主人
が、なかなか来ません。仕事場に電話をする

No. 2

と、元気のない声で、もう少し後で、とのこと。私は周囲の賑やかさにのみ込まれて時が過ぎました。お開きの時間になってしまい気になって駐場に寄ってみると、まさにマヒが始まっている状態で、救急車を呼び市民病院へ入りました。

私共は三十年程、整骨院を営んでいました。年一回の健康診断では、六十を過ぎたのに何の異常もなく、自信満々で患者さんの治療の日々でした。私は身内に誰も脳血管系の病の

B4 20×20 Sturf

人はいませんでしたので、私がありてるばかりでしたが、幸い姫の冷静な判断に助けられ入院生活が始まりました。

私は一人で整骨院を一ケ月開けておき、来院の患者さんに丁寧に説明し、何時開院できるかわからないので…と伝えました。残念でした。その後の主人の様子を見て、開院の手続きをし、三十年間頑張ってきた職場を整理、リフォームの手配をして賃貸住様に改しました。発症一年後でした。淋しさと無念さで

主人も私もズタズタな心でした。主人はまだにくかってのホームグラウンドを見に行く気はありません。その心境もわかりますので、行ってみたいという気になった時に…と思っています。幸い身内には何かと力になってくれる人が多く助かりました

この四月から私共の沢山の思い出の話った職場が、訪児所として生れ変り、若いお母さん達の出入りで賑わうようになります。今は、主人の状態が悪くならないよう気を使いながら

B4 26×36 Short

No. 5

日々を楽しく暮す事をねらっております。年は無休のような自営業から、三十年ぶりであり余る程の時間が出来、遊び方も知らない私達です。幸い娘の努力で、失語症の会や厚木の脳血管障害者の会、「カモミール」にめぐり会い、前向きに暮すことを知りました。あと半月程で初孫も生れる予定で又、違った生き甲斐もできる事と思います。これからも、よろしくお願い致します。又、ボランティアの方々にも心より感謝申し上げます。健康で仕事に

No. 6

追われていた日々は見えなかった世界を沢山知りました。いづれ私も何か役に立つ人間になりたいと思っています。

おわり

B4 20×20 Start

「今から始めるボランティア・NPO講座」…3/17～3/10 4回の講座がボランティア協会主催で行われ 実体験として私がなみボランティア会の1人として お話した事を記してみました。

私がボランティアの会に入ったきっかけは、社協主催の福祉映画「のり子は今」サリドマイドの のり子が 生き生きと 努力しながら生活している映画、友達に誘われて見に行ったのがきっかけでした。入口で チラシを配布しており ニードの他、介護の勉強もあるという ボランティアグループの紹介の内容を見て やがて老いてくる母をどう看ていったらよいか 今のうちに勉強してみようと思ったのがきっかけで入会致しました。

もう今から 有余年前の事、1ヶ月1回を1年かけて保健婦さんから実技をかねに今のように 介護用品もない時代 洗髪の仕方、排泄の お世話 寝巻き、敷布の取替え や 人の着替えの仕方、食事、床ずれの お世話 など 今では ヘルパーが勉強する様な事を教え育てて下さいました。それがニードの時など役に立った事は言う迄もありません。又 個人的な事ですが亡き主人の母の思い出は 私の一生の中でも痴呆という症状の中 壮絶な日々との戦いでもありました。約12年間 90才で亡くなる迄の間 様々な症状がありましたが 周囲の暖かい 姉妹の手助け 当時 わずかな福祉制度の手助けにより 月1回か2回のデーサービスで1日ほっとする事が出来ました。発病して7年目頃が最悪だった頃でしょうか 丁度下の子が浪人中で 寒い冬の夜中 ゴトゴト音がするので目をさますと 廊下はびしょびしょに 本人の体は 全て切ってふるえています 2階から声がする「どうしたのママ」「失敗しちゃったの」「ボク手伝うよ」流がとめどもなく出てきます。手伝ってくれた子供との会話を思い出します。母を最後迄看たいという信念があったので 子供のようになっていく母を一晩中 おしゃべりと付き合い やっと静かになったら朝になっていた事など度々ありました。亡くなる2.3ヶ月前は寝たきりになりやっと私の体は楽になりました。以前介護の勉強をしていたからこそ出来た事「やってみなさい大丈夫よ」と保健婦さんの親心が沁んできました。その間の肉体的 精神的重圧は大変でした。その間 ボランティアを迎えた訳ではなく近所のおばあちゃんにお話相手に来て頂き 定例会には出席、エネルギーを頂いて帰りました。平成2年主人は才2の転場を踏み出して半年の9月の事、急にくも膜下出血で倒れ3日間で亡くなって下いました。次の年の1月母も4ヶ月後 帰らぬ人となって了い長い介護生活は終りました。一度に2人を失った私はぬけがらのようになっていて 仏を見ても 次の日を送っておりました。ある日 車イスに乗

った朱語症友の会の方（若松さん？）にスーパーで出合い、たどたどしい言葉で「どうして来ないの？皆待っているよ来月から来てね」と励まされました。
そして活動を開始致しました。今迄やりたかった事、ボランティアにも申を広げ、友の会の泊りの行楽にも行き、私は参加できない仲人様や舞子様方と仲良く話にもかかわり共に流した事　愛情があればこそ又仲間がいるからこそ出来るんですよね。又、友の会の中から1ケ月1回ですが左手書道に通っている人が6人、目的は左手を強くするので味のある書を目指しています。秋には アジサイ会館で障碍者作品展が行われる時は皆の作品が光って見えます。皆様も一度ごらんください。
書道を教えるきっかけは趣味として「いるか会」に登録していたのを見てあげて欲しいと頼まれたのがはじめで　こんなに続くとは思いませんでした。　――以下省略――
平成12年から介護保険がスタートしましたが行政の手が差しのべられない部分をカバーするのがボランティアでしょう。
個人ニードは本当に多くなっています　今日お話したのは私の携っている中でも　ほんの少しの経験の中からの事を お話致しましたが和みなみのグループでは男性も女性も自分の得意とする事を生かし役割分担をグループ制にて学んだり教えたりの中で楽しみも生れ喜びを感じ魅力あるボランティアグループとして活動しています。

元気でいつ迄続けられるか分りませんが今は生き方に健康にと出来る範囲でやっています。
助け上手、助けられ上手、出来る時に出来る事を皆様も一歩の勇気を踏み出してみませんか。

和みなみ　鈴木恵子
ボランティアの会

？？？　私は誰でしょう　？？？

２月の中央の会で、似顔絵を描きました。５人が一組なり１人がモデル、残りの４人が分担をきめて描きました。誰の顔かわかりますか？

答えは・・・大堀さん　中田さん　今井さん

友の会に参加して

東芝林間病院言語聴覚士　岡松あづさ

安田先生にお誘いいただき参加させていただいたこの１年は、毎回勉強の場であると同時に楽しい時間を過ごさせていただく貴重な場でもありました。大学を卒業して以来数年ぶりに相模原市内で働く機会を得て、学生時代にお目にかかった方が今でもコツコツとリハビリを続けていらっしゃったり、5 年、10 年と友の会で活動していらっしゃる方にお会いしたことで、改めて失語症とは長い年月をかけて付き合っていくものであるということを再認識することもできました。

2007 年 4 月からは安田先生と交代でお邪魔させていただくことになりました。ご迷惑をおかけしないよう、楽しい時間を過ごしていただけるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

失語症の理解のための講演会

～失語症会話パートナーとは～

講　師　言語聴覚士　市川　勝　氏

さがみリハビリテーション病院
横浜「失語症会話パートナー」を養成する会

日　時　平成１９年２月１０日（土）

午後１時３０分～３時３０分

場　所　相模原市民会館　第一大会議室

相模原市中央３－１３－１５（０４２－７５２－４７１０）

失語症について幅広く学び理解をして頂ける方、関心のある方などご参加ください。

募集人数　１００名（申込順）

申込・問い合わせ先
相模原市富士見６－１－２０ボランティアセンター
電　話　０４２－７８６－６１８１
FAX　０４２－７８６－６１８２

主　催　相模原失語症友の会

後　援　相模原市
相模原市社会福祉協議会
相模原ボランティア協会

－　プログラム　－

13：30　開会　相模原失語症友の会の紹介

13：35　失語症の基本的な理解とその支援について
医療法人哺育会　さみがリハビリテーション病院
横浜「失語症会話パートナー」を養成する会
言語聴覚士　市川　勝氏

『私が考えるコミュニケーションバリア』
相模原失語症友の会　会長　阿部國士氏

『失語症会話パートナー』からの実践報告

14：45　パネルディスカッション
『失語症の人の社会参加に向けた支援とは』
コーディネーター　市川　勝氏

15：15　まとめ、質疑応答

失語症の人が直面するコミュニケーション・バリア

阿部　國士

私が＜脳出血＞で失語症になってから、この６月６日で１０年になります。
この１０年間で感じたのは、先ずは、普通の人と失語症の人が会話をする場合、相手に失語症とは何を認識してもらう事が必要だと言う事です。
次には、話題を決めておくこと。
もう一つは、時間が必要だと言う事でした。
先ず時間ですが、私が今、この講演会で話をしておりますが、それをするには、先ず私の頭に浮かんだことを文章にして、それを用紙に書いて、少し練習し、それを口に出すのです。
紙に書かないで、いきなりやったら、単語を忘れてしまい、文章は次から次に空中分解してしまい、話にならなくなります。
私の場合、短い文章は良いのですが、長い文章は全然駄目です。
結局、紙の世話になります。
自分を入れて４人以上の会話とか会議では、それが、つい面倒になり、発言をさし控えるのが常です。
　ここ１０年の間に私の友達が４人死にました。失語症とは何かを知っていて、時々、電話をくれ、話し相手になってくれた人ばかりです。
茂内さん、松沢さん、信田さん、そしてこの１月２２日に亡くなった隣の平山さんです。
茂内さんは会社の先輩でゴルフの先生、松沢さんは会社の同期で飲み仲間、信田さんは会社の後輩で囲碁仲間でした。ショックでした・
　私が北里東病院の言語治療を終えたのは１９９９年８月５日、会社を早期退職したのは同年の１０月２９日です。57歳でした。
そのときの寂しさ、心細さと言ったら無かったです。
それを救ってくれたのが、相模原失語症友の会の皆さんとＳＴの先生、ボランティアの方々、そして今挙げた４人だったのです。
　私が＜会話パートナー＞の話を聞いたのは、２００４年５月２２日の県失語連の年次総会の時です。面白い話だと思っていました。
その時は６１歳になっていました。
先輩の茂内さんが亡くなった年です。
これから自分はどうなるのか、友達は出来るのだろうか？
自分の話し相手はどうなるのだろう？そう思ったのです。
家族や友の会の人がいるにしても、です。

歳をとって、もしディサービスに行ったらどうなるのだろう、とも思いました。
この私の疑問と＜会話パートナー＞が何処かで合わさることは無いだろうか、と時々思いながら２年が流れてゆきました。
あるとき、散歩の途中で楽しいことがありました。
私の散歩は一人です。２，３箇所場所を決めて、そこを４、５０分くらいで回るやり方です。
そこには必ずベンチがありますが、会話を楽しめるような人は中々来ません。
その日はそうゆう人が来たのです。５０歳台の女の人でした。最初から私が失語症だとゆうことを知っていたと私は思います。
何を話したかは忘れてしまいましたが、いろいろの話をした、楽しい３０分でした。
そのとき、＜会話パートナー＞とは、こうゆうものではないだろうか、思いました。その人はその後その場所には来ませんでした
その間には、松沢さんと信田さんが亡くなりました。
２回目の＜会話パートナー＞の話を聞くのは、２００６年の５月６日です。
県失語連が年次総会で、＜会話パートナー＞の講習をやってくれたのです。
この実習は、私としては楽しいものでした。
月２回の友の会の例会、音楽療法、それに＜会話パートナー＞さんとの時々のおしゃべりがあれば、楽しいなぁ思いました。
それで、相模原ボランティア協会の白濱さんにこの話しをしました。
それが今日の講演会に繋がっているのです。
最後は、会話をするときには、出来れば、自分で話題を決めておくことです。
楽しい話題と憂鬱な話題、楽しい話題と悲しい話題、自分が中心になれる話題と自分が放って置かれる話題。
このことに就いては、普通の人も失語症の人も同じだと思います。
そうやって会話を楽しむときも、やはり、言いたいことを言うには、時間がかかるのです。中々タイミングがあってくれません。
私たちの会話には沢山のバリアーがあるのです。
ですから、私たちの普段の会話でも、その手助けをしてくれる＜会話パートナー＞さんがいてくれたら良いのになぁ、と思うのです。
これで私の話は終わりです。拙き文章と発音を聞いていただき有難うございました。

以上

「失語症の理解のための講演会」　開催報告

ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ　白濱豊子

昨年９月、「第２４回全国失語症者のつどい」茨城に参加した夜、相模原でも失語症の人の理解、会話パートナーについて講演会をぜひ開きたいと、さがみリハビリ病院 ST 市川先生、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ石塚さんと３人で、熱く語り合いました。

開催については、平成１８年度中に、１２月１月は年末年始のため２月の開催を目標に、１０月初めに準備を開始、相模原市民会館を会場に２月１０日（土曜日）に予約をする事が出来ました。相模原市、相模原市社会福祉協議会、相模原ボランティア協会に後援依頼の資料を揃えてお願いに行き、講座を開催するについては、いろいろ後援を頂きました。

市川先生とも連絡を取りながら、広報のためのチラシの作成印刷、配布については、役員のみなさんと協力、ぜひ、保健師、ケアマネ、看護師、施設の皆さん、家族の方々などたくさんの人にご参加頂けるようにと祈りながら配布いたしました。

１月１日号の相模原市広報、市社協の「みんないい人」に募集記事が掲載され１月４日からﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰの皆さんのご協力で１００名募集の受付を始めました。結果、当日欠席をした人、当日参加をされた人を含めて、各業種の関係者の方の参加がありました。

参加者内訳　合計１０５名

居住地域　東京都狛江市　１名、千葉県茂原市１名、町田市４名、横浜市９名
座間市３名、茅ヶ崎市１名、津久井２名、相模原市８４名

講座を受けようとした動機は
失語症患者と家族の方　５０名、　病院関係・介護・ケアマネ等　２７名
失語症理解のため・ボランティア・学生・その他　２８名

☆　アンケート集計結果　有効回答数＝８４

「講演会の内容はいかがでしたか」
①良かった４８、　②とても良かった３０　　③普通６

「失語症をもっと知りたいと思いますか」
① 知りたい５５、②ぜひ知りたい２１、③どちらでもない４、④知りたくない１、⑤無回答３、

「今後、失語症についての講座に参加したいと思いますか」
① 参加したい５０、②ぜひ参加したい２６、③どちらでもない６、無回答２

「全体の時間はいかがでしたか」
① ちょうど良い６０、②長かった２０、③とても長かった２、④短かった３、④無回答１、

「失語症者への支援の必要性を感じましたか」
① 感じた４５、②とても感じた３６、③あまり感じなかった２、④無回答１，

☆　アンケートから「感想」「要望」

この度の失語症についての講座は大変有意義な講演会だった

① 失語症者のお話を直接聞く機会がなかったので大変勉強になった。
② PT として失語症の方と関わる中でｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝについて大変なストレスを感じていることを知った、精神的負担に注意して、身体のリハビリに取り組みたい。
③ 失語症者と関わる場合、ゆっくりと「待つ」ことの大切さを知った。
④ 失語症者と会話パートナーの話が聞けたのが良かった。

⑤ この度の講座の開催は、もっと多くの人に知ってもらえるように、との一心からと失語症者の思いが現れていて、敬服した。
⑥ 医療での ST を受ける場所が無くなり困っていた時の講演会で、考える事が沢山あった。失語症のための施設、楽しく過ごす時間の必要性を多くの人に知って貰う機会が欲しい。
⑦ ある特定の場所に行かなくては会話パートナーと会えないのではなく、ボランティア、家族が会話パートナーになれたら良いと思う。
⑧ 失語症や ST に対する理解がまだまだ低いと思う。ST という言葉、ST の居る施設が少ない。ディーサービス、老健、特養などにも ST が増えるとよい。
⑨ まだまだ失語症を知らない人が多い。もっと勉強出来る場所があると良い。
⑩ 失語症になったとき、不安や思いを会話パートナーを通して表現する方法があればいいなと思う。何処でも誰でも話せる会話の介護が出来るようになれば良い。
⑪ サロン形式で、誰でもいつでもお茶を飲みながらでも話す場所があれば良い。
⑫ ディサービスで失語症の通所者はおとなしい人と見られる。コミュニケーションが難しいので静かにしている。スタッフのケアの仕方の向上が今後望まれる。
⑬ 目に見えない病気、障害が周囲から理解されない辛さがある。健康な人中心の世の中ではいけない。知らない事が問題で、知るようにする事が大切である。
⑭ パートナーについての講演だけではなく、失語症者の活躍を他の方にも見て頂く失語症者を対象にした、社会に出るきっかけとなる会も開催して欲しい。
⑮ 失語症になった７８才の夫と入院先で、毎日の地域の事、ニュース、日常的な事などお喋りしている。言葉のリハなら夫の性格を知る私に与えられた役目だと思っている。
⑯ 失語症の人が会話にこれほど苦労していると改めて知った。
⑰ 家族が失語症になって１０年。医療の改正で受診出来なくなり、会話で「待つ」事が出来ず、自分で質問して答えて、「うんうん」で返答している。難しい
⑱ 失語症は介護の対象から軽く見られていて、自ら主張出来ないから周りが声を挙げて本人の不自由さや、苦しみを社会に訴えていく必要があると思う。
⑲ 若い失語症者は介護保険でディサービスに参加したくなく、どうしても孤立している。
⑳ 見た目には普通に見えるけど、話しかけられると、何も分かっていない。一人では外出させられないことに、困っている。

- 相模原市でも会話パートナーの講座を開催して欲しい。
- 失語症会話パートナーが増えて施設等に配置されたらいいと思う.
- 若い失語症者の友の会、就労施設、会話パートナー養成講座、市での失語症相談窓口開設、独居の生活支援サービス、カフェサロンの開設など。
- 失語症は現行の医療保険・介護保険では無理、時間、点数の見合う「失語症リハ」の創設も必要ではないか。会話パートナーを含むボランティアもある程度点数の評価も必要。
- ディケアに ST 配置を義務付けたり配置する加算など、優遇すべきと思う。
- 失語症者だけの施設や教室があったら、良いと思う。
- 介護職の人は失語症について、是非勉強して欲しい。

今回この講座を開催しての感想は、とても有意義な講演会が開催出来たと思います。
１０年前にやはり失語症講座を開催した時と今回では、社会の失語症に対しての関心度がこの様に違って来たのかと、アンケートを纏めてみて考えました。このアンケートの総てを載せることは出来ませんが、思いは伝わってくると思います。

平成18年度　相模原失語症友の会の一年

	例会に参加された方の人数		主な出来事
	中央	南	
4月	17	13	総会開催。阿部会長が2期目に。川路先生初参加（中央）
5月	16	13	2年振りに安田先生参加。岡松先生も（南）
6月	18	13	清水先生初参加（中央）
7月	17	16	見学の方も交えて賑やかに。ゲームでははさみを使って「切り絵」を（南）
8月	16	14	高校野球の早稲田実業が話題に（中央）
9月	17	14	水戸市で開催された「全国失語症者のつどい茨城大会」に会員、家族、スタッフ総勢16名が参加。バスを仕立てて1泊2日。茨城を堪能
１０月	17	15	今月誕生日の方を「ハッピィバースデー」の歌で祝福（南）
１１月	17	13	2人一組になって似顔絵描き（中央）
バスハイク	17		バスハイク初参加の方も含め、総勢33名。１泊２日で西伊豆方面へ。黄金崎やホテルでは海に沈む夕日に歓声。
１２月	17	15	「年末双六ゲーム」（南）サンタの扮装をした方も交えて記念写真（中央）
１月	15	16	音楽指導の学生さんが卒業のためお別れ（南）
合同新年会	18		市民会館の広間で、昼食をいただきながら、カラオケ。全２０曲を熱唱
２月	14	15	5人一組で似顔絵描き（中央）、5年間お世話になった萩生先生にお礼の花束贈呈（南）＊「失語症の理解のための講演会」を開催。約100名の方が熱心に聴講。
３月	17	14	今月の歌「アンコ椿は恋の花」（中央）「さくら」（南）花の季節の到来。因幡さんが友の会卒業のご挨拶。作品集「さえずり」１８号の発行

さえずり

第18号

発行年月日　平成19年3月27日

発行者　相模原失語症友の会

会長　阿部　國士